

様式1(主な取組)

活動指標名	文化庁等機会提供事業鑑賞児童生徒数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12,269人	9,382人	12,954人	11,881人	20,034人	13,000人	100.0%	819	順調	文化庁、県、市町村教育委員会及び学校等との共催により鑑賞機会提供事業を実施した。内容は、ミュージカル、オーケストラ、児童劇、音楽などの鑑賞やワークショップ・共演を実施した。また、離島・へき地の児童生徒に芸術鑑賞提供するため、宮古島市で2公演(バレエ)実施した。
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 文化庁主催の特定非営利活動法人等団体による委託業務募集を県内の特定非営利活動法人等団体に呼びかけ、新たな学校受入れ枠の増を模索する。 行政説明会や教頭会等で事業の周知を継続し、併せて各学校への周知や応募の呼びかけを実施し、また、応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。 						<ul style="list-style-type: none"> 指導主事等研修会、市町村文化財保護行政担当者研修会にて説明・資料提供を行い、周知を図ることができた。 応募の少ない市町村に呼びかけるとともに、配付資料の内容を見やすくまとめ、今年度の実績を一覧で示した。また、各校で効率よく企画書を作成できる資料を配付した。 申請書の作成時や実施報告書作成時に提出が遅い市町村に対して連携して支援した。 				



様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・本県は、学力向上対策が最重要課題であり、このため各学校とも授業時数の確保等が優先される傾向が見られる。・行政説明会や小・中学校校長研修会等で事業の周知は進んでいるが、市町村によって応募学校の差が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・他県に比べても離島が多いことなどから、準備に要する時間や移動時間がかかるため開催回数が限られ、芸術文化に触れる機会がまだまだ足りない。・採択権を持つ文化庁等が採択する学校によって児童数が10～800人と差があるため、学校の児童数に合計が左右される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・離島やへき地などの子どもたちが優れた文化芸術を鑑賞できる機会がまだ十分ではないため、文化創造活動の尊さや芸術の感動を体感できるよう、引き続き鑑賞教室の実施を推奨する必要がある。
- ・各担当者が異動等で代わると本事業が周知されない、または対応が遅れる等の可能性があるため、各市町村教育行政及び指導主事研修会や小・中学校校長研修会で、継続して本事業の内容を周知する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・行政説明会や市町村教育委員会担当者への事業の周知を継続し、併せて各学校への周知や応募の呼びかけを実施する。
- ・応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。
- ・過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、新たな学校が応募できるように支援する。